



社会福祉法人カシオペア障連
放課後等デイサービス事業所 えんじえるはあと

ちょうどいい 私と職場の働き方

～社会福祉法人カシオペア障連
放課後等デイサービス事業所 えんじえるはあと～

社会福祉法人 カシオペア障連

(佐藤慶之理事長)

カシオペア障連は、障がい当事者が相互に交流し親睦を深めることで地域での暮らしに安心をもたらすことを願いとして、平成15年に任意団体として発足。平成17年にNPO法人格、平成29年に社会福祉法人格を取得。

職員たちの言葉から生まれた基本理念「一人ひとりの願いを実現するために活動します」に基づき、障がい当事者に限らず、当事者の家族、職員、関係機関等、「個」のニーズや願いを大切にし、自己実現に向けた取組を行っている。

相談支援事業、就業・生活支援センター事業、就労継続支援B型事業、就労移行支援事業、生活介護事業、放課後等デイサービス・保育所等訪問支援、共同生活援助事業を実施。

放課後等デイサービス事業所 えんじえるはあととは、学校通学中（小学校～高校）の障がいを持つ子どもが放課後や夏休み等の長期休暇の居場所として利用できる事業所です。利用児16名に対して職員は5名。限られた職員で障がいの程度や年齢の異なる利用児を支援することは容易ではありません。そのため、えんじえるはあとでは、毎日職員ミーティングを2時間程行い、利用児一人ひとりについて気づいたことや支援の在り方を職員関係なく自由に発言し合い、あらゆる角度から子どもたちのアセスメントを行ってまいります。子どもによっては職員、学校、家族など相手や場面、その時の気分によって見せる姿や言動が異なるため、子どものちょっとした変化や気づきも見逃さず、職員間で密に共有しています。

今年度、新卒で当該法人に入職し、えんじえるはあとの保育士として勤務している中家一姫さんは、短大在学中の実習先がえんじえるはあとで、その時から「職員間の垣根がなく、自分の思いや考えを発信できる職場」と魅力を感じており、縁あつ

て就職につながりました。「保護者からの連絡帳や保育所等訪問支援により家庭や学校での様子を把握でき、それを職員間で共有することで、子どもの一部だけでなく背景も理解した上で支援を行うことができます。児童発達支援管理責任者である藤川さんがいつも力を抜いてね」と声を掛けてくれ、マイナスのこともプラスの方向に転換してくれるので、とても働きやすいです」と話す中家さん。

児童発達支援管理責任者の藤川由香利さんは、「子どもたちも職員も一人ひとり大切です。普段から利用児を、障がい児としてではなく、特性のある子」として関わっており、その特性やその時のコンディションに応じて、適切な職員が自然とその子どもに関わる支援ができています。どの職員も同じで区別がないことが子どもたちにも伝わっているようで、ありのままの姿を私たちに見せてくれます。中家さんの子どもたちへの関わりには感じます。なので、私から中家さんに支援の方法を相談することもあるんですよ」と中家さんを笑顔で見つめながら話していました。

今後も、子どもも職員も価値ある「個人」として尊重し合い、子どものみならず子どもを取り巻く環境全体が良くなることを目指して取り組んでいきます。



(左) 保育士 中家一姫さんと
(右) 児童発達支援管理責任者 藤川由香利さん



未来ある子どもたちの自己実現に向けた食と学習の支援

～特定非営利活動法人 青少年未来プロジェクト（奥州市江刺）～

青少年未来プロジェクトの理事長 菅原正亮さんは、NPO法人を設立する以前、家庭教師を行う傍ら、旧江刺青年会議所（現・奥州青年会議所）に所属し、より良い地域づくりを目指し地域課題等に積極的に取り組んできました。家庭教師と青年会議所の活動を行う中で、相対的貧困をはじめとする様々な困難を抱える子どもたちを目の当たりにし、まずは相対的貧困を無くさなければならぬという課題認識を持つようになり、また、「学校」という教育システムを、上手に利用することが難しい子どもたち一人ひとりに合った教育の必要性も感じました。

菅原さんは現在も家庭教師を続ける一方、法人では食糧や生活必需品等をひとり親世帯に配布する「フードパントリー事業」や、奥州市内の小・中・高校生等に無料で学習支援と食事提供を行う「おうしゅう無料塾事業」等の事業を実施しています。「おうしゅう無料塾」は、開催時間内は17時30分から20時30分の間は自由に参加でき、帰宅する時間も自由です。水沢南地区センターで子ども食堂を開設している「みなはじ実行委員会」の協力を得るなどして食事の提供を行い、参加する子どもたちは自主学習に取り組み、分からない部分は菅原さんの

指導を受けながら学習に励んでいます。専属スタッフは菅原さんのみですが、会員やボランティアが運営を支援したり、奥州、一関両市在住の高校生で構成される団体（貧困解消を目標に立ち上げた団体が学習支援に協力する等、様々な人や団体と連携・協働しながら事業を展開しています。



フードパントリーにおいてレトルト食品を選ぶ母子

おうしゅう無料塾で参加者が自主学習している様子



菅原正亮理事長

菅原さんは、「子どもたち自身が適正な環境確保を行うことは難しいです。よって、我々が補助することが重要で、環境を整えれば、自然と学習に励むようになってくれます。おうしゅう無料塾等の事業はきっかけづくりであり、あくまでも子どもたちの意思が大切です。この地域に生まれて良かった」とこの地域にまた戻ってきたい」と

思ってくれる子どもを増やし、その子どもが成長し主体となって行動できるようになった時こそ、我々の存在意義を感じる時だと考えます。その時まで小さな活動を実行に続けていきたいと思えます。」と今後の展望について語ってくれました。